少年少女世界伝記全集

宮沢賢治

西本　鶏介

主婦の友社版

少年少女世界伝記全集 22
宮沢賢治

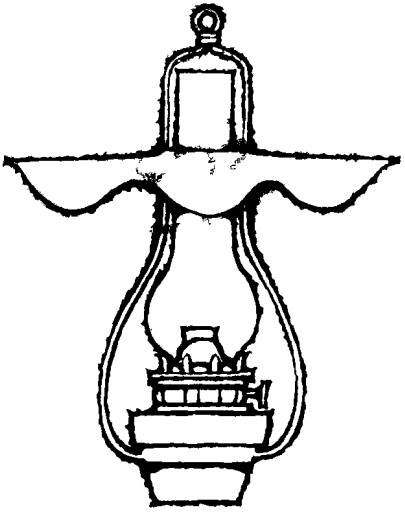
	西本鶏介
	宮沢賢治 主婦の友社　昭和52年(1977) 174p　22cm 〔分類〕909

筆　　者　西本鶏介
発 行 者　石川晴彦
印刷・製本　凸版印刷株式会社
定　　価　480円　昭和52.11.30発行
発 行 所　株式会社　主婦の友社
東京都千代田区神田駿河台1－6
郵便番号　101　振替　東京2-180番
電話　東京(03)294－1111(大代表)
©1977　落丁・乱丁はおとりかえします。　著者との話しあいにより検印廃止。

少年少女世界伝記全集

宮沢賢治

文・西本鶏介
絵・堂　昌一



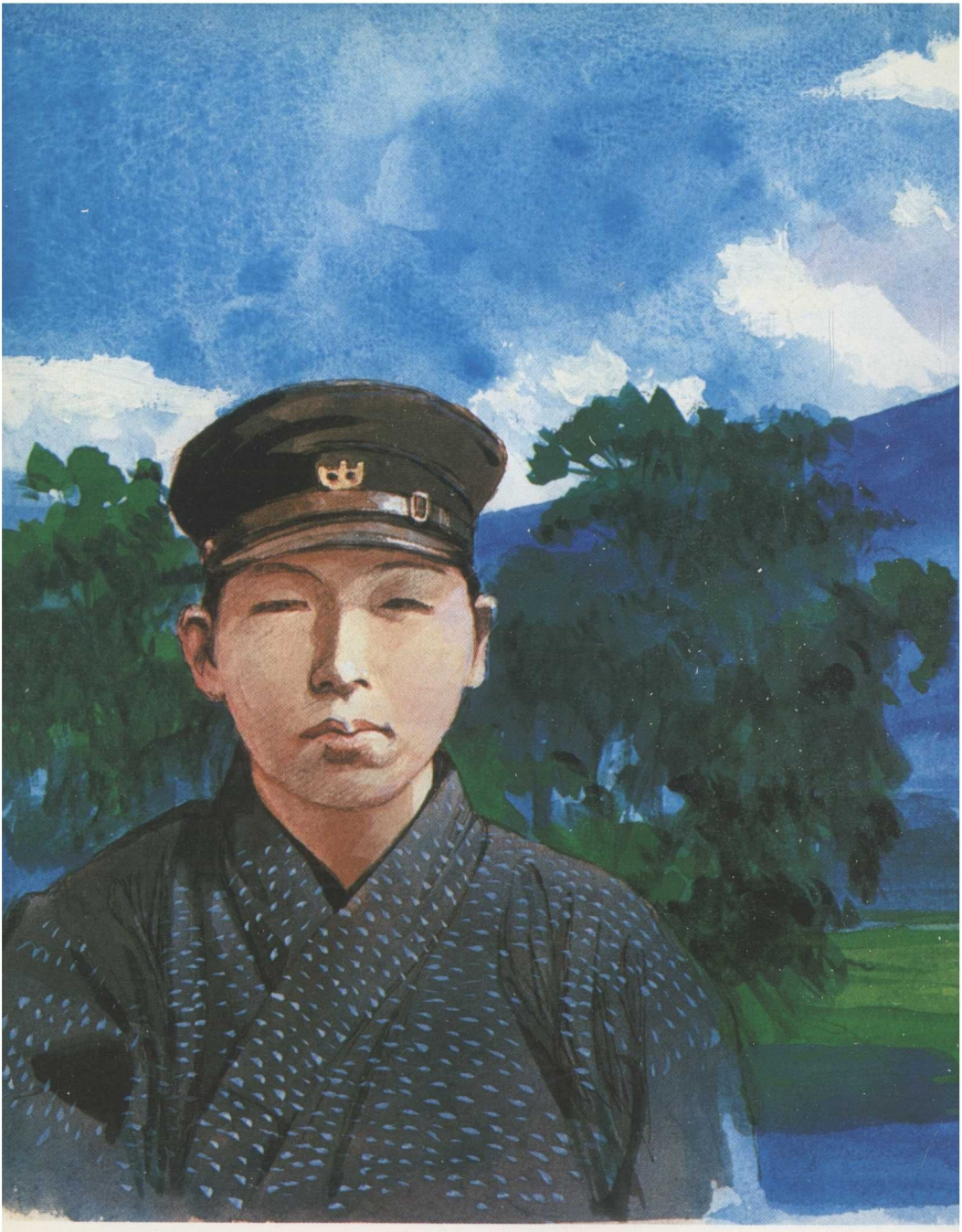
主婦の友社版

デザイン
装　　丁　駒宮録郎

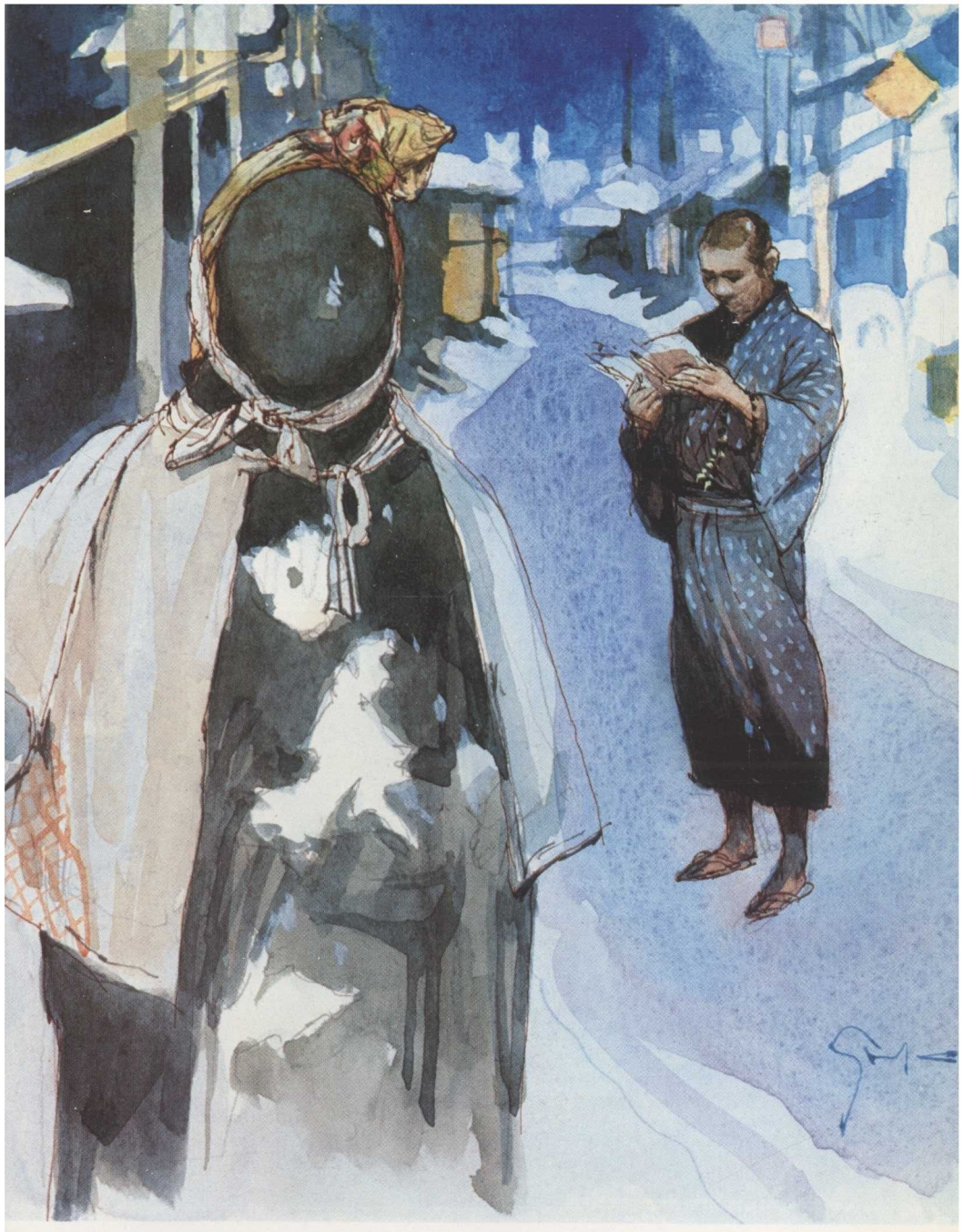
賢治ととし子は、一つ一つほやをとりあげると、アリやコオロギを一匹残らず逃がしてやりました。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

れることができるのでした。



中学時代の賢治はひまができると岩手山に登りました。
山の中で、じっと立っているだけで、賢治は満足でした。
ここにいれば、いやなことも、つらいことも、みんな忘



賢治が寒行をはじめたといううわさは、たちまち町じゅうに広がりました。中には彼を気ちがいあつかいする人まで出てくるしまつです。

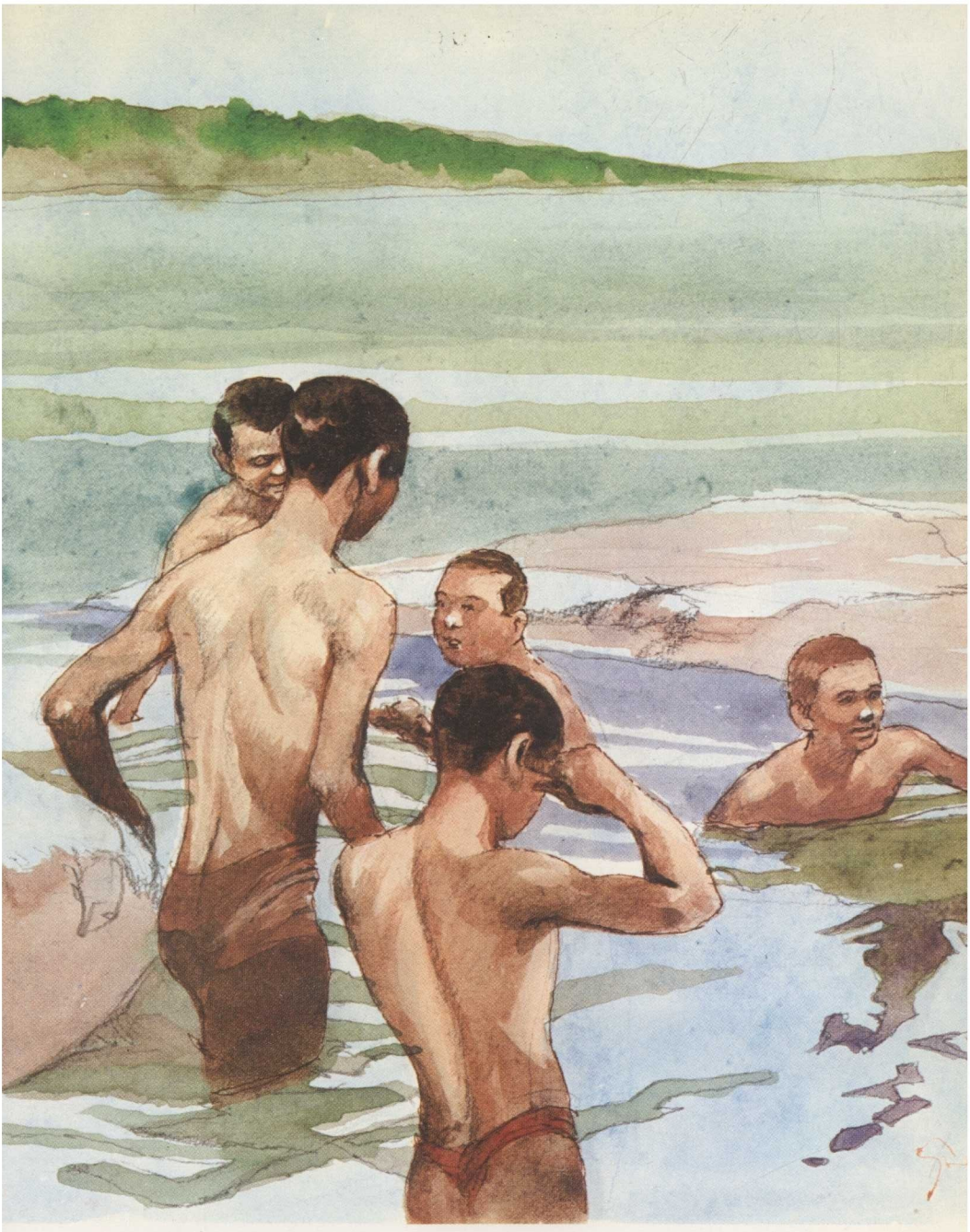
おとうさんと二人で、伊勢参りをした賢治は、京都でお寺めぐりをして、最後は奈良の法隆寺へ行きました。彼の生涯でこれほど楽しい旅行はありませんでした。

わざとそういいました。

とし子は、布団の中で、青い顔をしてやすんでいました。

「どうした、とし子。でも、思ったより元気そうじゃないか。」すっかりやせてしまったとし子を見て、賢治は、

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com



夏になると、賢治は、生徒たちをつれて、よく北上川へでかけました。生徒たちは水しぶきをあげて川へとびこむといろんな石を捨ってはけんじに見せるのでした。

はじめに

宮沢賢治は三十八年の短い一生のうちに、たくさんの詩や童話を書きました。宮沢賢治の名前は知らなくても、「雨ニモマケズ」という詩や「風の又三郎」、「セロひきのゴーシュ」、「どんぐりと山猫」、「注文の多い料理店」といった童話なら読んだことがあるでしょう。

でも、賢治は詩や童話を書いて生活した人ではありません。その詩や童話が有名になったのは、賢治がなくなってから後のことです。貧しい農村の人たちのために、やせた土地を肥やすにはどうしたらよいのか、作物をたくさん取るにはどんな工夫をすればよいのか、それを研究し、自分で教えてまわりました。人も動物も自然も一つになって暮らせる理想の世界をめざして働き、その夢を詩や童話に書いたのです。みんなのために役立つ人間になろうとしたのではなく、自分の夢を実現するために、わずか三十八年間を、はげしく、美しく生きた人です。これは、その一生の物語です。

西本鶏介

もくじ

土のにおいと風のささやき……15
あぶなかったなあ……15
偉い人になりたくない……22
山の多いやせた土地……29
死んでしまったバッタ……34
ランプのほやがすき……41
草や木や石が話す……48
仏さまってなんだろう……53
すべてのものにいのちが……60
学問への情熱ときびしい修行……67
人間なんてちっぽけなもの……67
童話を書いてみよう……73
質屋をやめてください……78

すばらしい日蓮宗……84
東京へ行こう……89
きびしい修行の毎日……94
おとうさんと二人での旅……101
とし子、死ぬんじゃないぞ……107
悲しみのうたと農村への愛……113
ぜひ、先生になってくれ……113
とし子、がんばるんだ……122
イギリス海岸……128
売れない詩集と童話集……135
土まみれになって働きたい……140
一人前のお百姓になれた……147
人はなかなか死ねない……153
法華経の本をつくってください……159
あとがき……166
年表……170

土のにおいと風のささやき

あぶなかったなあ

夏の日は、もう大きく西へかたむこうとしていました。水をたっぷりとたたえた北上川は、きらきらと光りながら湖のように広がって流れていきます。

青白い泥岩が川ぶちに沿ってつきだし、そこは、まるで白い海岸のように見えま

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com